

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070300324		
法人名	医療法人 医和基会		
事業所名	グループホーム 金刀比羅 (3階)		
所在地	〒804-0022 福岡県北九州市戸畑区金比羅町4番29号 Tel 093-573-8731		
自己評価作成日	平成29年08月30日	評価結果確定日	平成29年12月08日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成29年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念にもあげているように「ぬくもりを感じてもらえる存在でいられるように」「心に寄り添った支援ができるように」と各職員が念頭におき入居者の皆様、ご家族と接している。入居者の皆様、ご家族から感謝の言葉や労いの言葉、笑顔を頂戴する事も多く、今後も「あなたがいてくれてよかった」と思ってもらえるように皆様と関わりを持っていきます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各所に理念を掲示し各職員が常に意識できるようにしている。また、ケアプランを作る際、日々の介護を行う際にも念頭におき実践できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に行く、買い物をする、外出する等、慣れ親しまれていた生活を少しでも継続できるように、社会や地域との繋がりを保って頂けるように支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加しており、認知症の方の理解を頂ける機会はあるが、支援方法の理解や活かせる機会を持っておらず今後の課題である。運営推進会議に地域の方を招き今後も努力していく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加頂いたご家族や地域の方々などからの質問や意見を受けとめ支援に反映させるなどサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加して頂き、事業所の取り組みをお伝えしアドバイスを頂いている。今後も積極的にアプローチし連携を取っていきたい。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解は出来ていても日々介護を行う中で身体拘束にあたらないか職員間で話し合っている。エレベーターの施錠に関してはご家族の方に承諾をもらい閉塞感のないよう出来る限り入居者の方の希望に添えるよう努力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加、研修で得た知識を他職員にも伝達する等し、知識を深めるように努めている。日々介護を行う中でも虐待にあたる行為でないかを職員間で話し合いながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいる為、全職員で関わり方やサービスについて学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の方やご家族の方が不安を抱えている際にはわかりやすくご理解頂けるまで説明させて頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段のコミュニケーションの中でも要望を伺うようにしているが、各フロアに意見箱を設置し意見を頂く機会を設けている。また、運営推進会議にご家族や入居者の方も参加頂きその都度意見、要望を伺い改善に努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティングを行い意見や提案を聞く機会を設けている。また、定期的にヒヤリングを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	得意な事は積極的に行ってもらっている。法人からは永年勤続者へ報奨金の支給や資格手当等を支給するなどし配慮している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ヒヤリングや個人面談を実施し、本人の希望や能力が活かせるように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングや勉強会を通じて人権についての理解と知識が深められるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修のスケジュールを職員へ知らせ希望者の参加を優遇しているが、職員のスキルに合った研修への参加も促している。研修で得た知識を発表する場、伝達する機会を設け、職員全体のスキルが上がるように取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と共に学ぶ研修や勉強会の機会を設けたり法人内外での研修に参加し日々の業務や入居者の方との関わりを体感し意見交換を行いサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何度か面談を行いその方を知る努力を行っている。また、入居後もコミュニケーションを図り話しやすい環境、信頼関係を築く事に努め意思を表して頂けるように働きかけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族の思いや真意を知れるように話し合いの機会を設けている。入居後も入居者の方の状態報告を行いながら少しでも不安を取り除けるようにコミュニケーションを図り信頼関係を築く努力をしている。今後は全職員が対応できるようになる事が課題である。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族共に現状を受容頂けるように話し合いの場を設けている。その上で必要な支援やサービスを提案し対応させて頂けるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に物事に取り組むようにしている。入居者の方が得意な事、馴染みの事については積極的に参加して頂けるよう働きかけ自信を取り戻していただき、やりがいを感じて頂けるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と入居者の方が共に過ごせる機会を出来る限り持って頂けるよう働きかけたり、行事にもご家族の参加を促している。外食、買い物についてもご協力頂ける事はお願いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族から話を伺い、馴染みの方と過ごす機会、馴染みの場所へ出掛ける機会を設け、これまでの想いや関係性を継続できるよう支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りコミュニケーションが取りやすい環境を作っている。気が合わない方がいる場合は、距離をとって頂くが孤立しないように配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、面会に行くなどした際にご家族の相談を受ける事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り、思いや要望を言って頂けるような信頼関係を築けるように努めている。その思いをケアプランに反映し実現できるように努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を伺い得た情報はケース記録や情報提供書に記載しスタッフ間で共有できるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースに合わせて共に活動する事で、体や心の状態を把握している。また、記録に残し送りを行いスタッフ間で共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望、ご家族の思いを念頭におき介護にあたっている。実践した上での状態の変化や意見をモニタリング、アセスメントに反映させより良く暮らせる為のケアプランとなるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別の記録に記入している。気づきは個別記録用紙の気付いた事の欄に記入し、情報の共有に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にとってより良い事であるようにサービス内容を検討している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	よく行かれていた店や場所へそれまで築いてこられた人々や地域と関わりを継続できるよう、また社会性が保てるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診時に状態報告を行っている。その際、ご家族の意向も伝えている。また、ご本人やご家族の希望によりこれまでのかかりつけ医への受診を希望される方への受診介助も行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度日頃の様子を伝え情報を共有している。また状態に変化が見られる時は相談や指示を仰いでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、面会にて状態を確認すると共に医師、看護師、ソーシャルワーカーと連携を図りながら安心して過ごせる環境作りに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しているが重度化や終末期を迎えようとしている際にもその都度説明しご理解頂けるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会や研修にて急変時の対応を振り返ると共にマニュアルの作成やAEDを設置し緊急時でも対応できるように備えている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防団、近隣施設、自治会の方々に協力して頂き日中、夜間を想定した避難訓練を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方である事、一人ひとり人格を持っている事を心に留め、敬意を持って対応している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り希望や思いを表出しやすいよう信頼関係を築いている。また、いくつかの候補の中から好きな物を選んで頂く機会を作っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いを大切に出来る限りその方のペースでその人らしい生活が送れるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の訪問理美容の利用やその日に着る洋服を選んで頂いたりしている。お化粧をする習慣のあった方には、お化粧を促しこれまでの生活を出来る限り続けられるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けに参加して頂き提供されるだけの食事にならないようにしている。また、その日の気分や体調により負担にならないよう配慮している。好きな物を購入したり外食として召し上がって頂いたり皆さんで作ったりする機会を設け食事を楽しんで頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分について好きな物を提供する等して、これまでの生活習慣を継続しつつ、より摂取できるよう支援している。また、月に一度栄養士と会議を行い入居者の方の意見を伝えている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにて口腔ケアを促している。磨き残しは介助を行い、口腔内が清潔に保てるようにしている。また、ご家族の要望や必要に応じて訪問歯科の往診を受ける方もいる。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	申し送りや排泄チェック表を活用し排尿・排便パターンを把握しトイレ誘導や介助を行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動を行って頂いたり毎朝牛乳を摂取して頂いたりお米に繊維質の多い麦やビタミンサプリを混ぜ提供している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	間隔が空きすぎないように予定は立ててはいるがその日の気分や体調にあわせて行っている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズムやその日の体調に合わせてゆっくり過ごして頂いたり日中も横になる時間を設ける等し休息できる環境を作っている。また、室温調節を行い気持ち良く眠れるようにしている。気持ちが落ち着かない時はスタッフとゆっくり話をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をもとに薬の効能、副作用を出来る限り把握し情報を共有している。また、変化が見られるようであれば、かかりつけ医への報告、指示を仰いでいる。薬に関しての研修に参加し知識を得るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で張り合いや喜びを感じて頂けるように得意な事やお好きな事を見極め出来る事は行って頂き役割や日課として感じて頂けるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望に応じて散歩や買い物、外食へ出掛けている。また、ご家族の協力のもと、お見舞いやお墓参りなどにも出掛けられている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行った際には、お金を手渡し自らお支払頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身の携帯電話でご家族との通話を楽しまれる方がいる。また、ご家族や友人に年賀状や手紙を出される方もおり、支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるような飾り付けを入居者の方と行っている。(日々の作品や写真等)また、湿度・温度計を設置し管理を行い快適に過ごせるよう努めている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他入居者とコミュニケーションが取れるようにまた、ゆっくりと一人の時間を過ごせるようにフロアのレイアウトを行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、馴染みのある物を置く事で、居心地のよい場所となるように配慮している。また、ご本人の意向を尊重し家具等の配置を行っている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの入口に名前を書いてわかるようにしている。また、歩行器や車イスを自操しても接触しないようスペースを確保している。出来る事は行って頂きながら活き活きた生活が送れるよう支援している。		